古河電気工業株式会社

2027 年 3 月期第 2 四半期決算説明会

2026 年 11 月 9 日

[登壇者]	2 名	
	代表取締役社長 CEO	森平　英也（以下、森平）
	代表取締役 兼 執行役員常務 CFO	青島　弘治（以下、青島）

All to brighten the world
FURUKAWA ELECTRIC

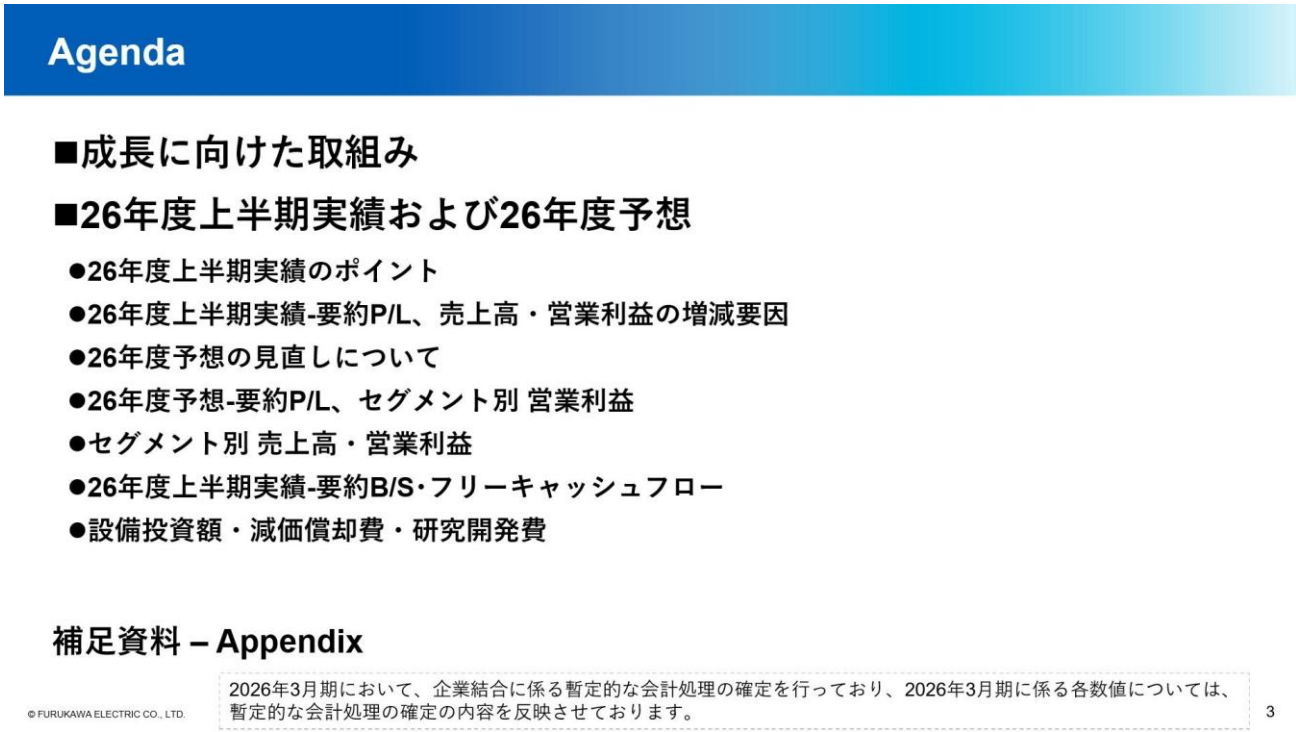
古河電工グループ 2026年度第2四半期決算

2026年11月9日

古河電気工業株式会社
代表取締役社長 CEO　森平 英也
代表取締役 兼 執行役員常務 CFO　青島 弘治

© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD.

森平：あらためまして森平でございます。本日はお忙しいなか、当社グループの 2026 年度第 2 四半期決算説明会にご参集を賜りまして誠にありがとうございます。それでは今、共有しております資料に沿って私と青島からご説明させていただきます。よろしくお願いいたします。



まず 3 ページ目でございます。こちらが本日のアジェンダです。私から成長に向けた取組みについてご説明をし、続いて青島から上期実績と通期予想をご説明いたします。

成長に向けた取組み

All to brighten the world FURUKAWA ELECTRIC

データセンタ関連需要の取込みに向け供給能力拡大を着実に実行

➢26年度の利益成長に寄与。追加投資も決定

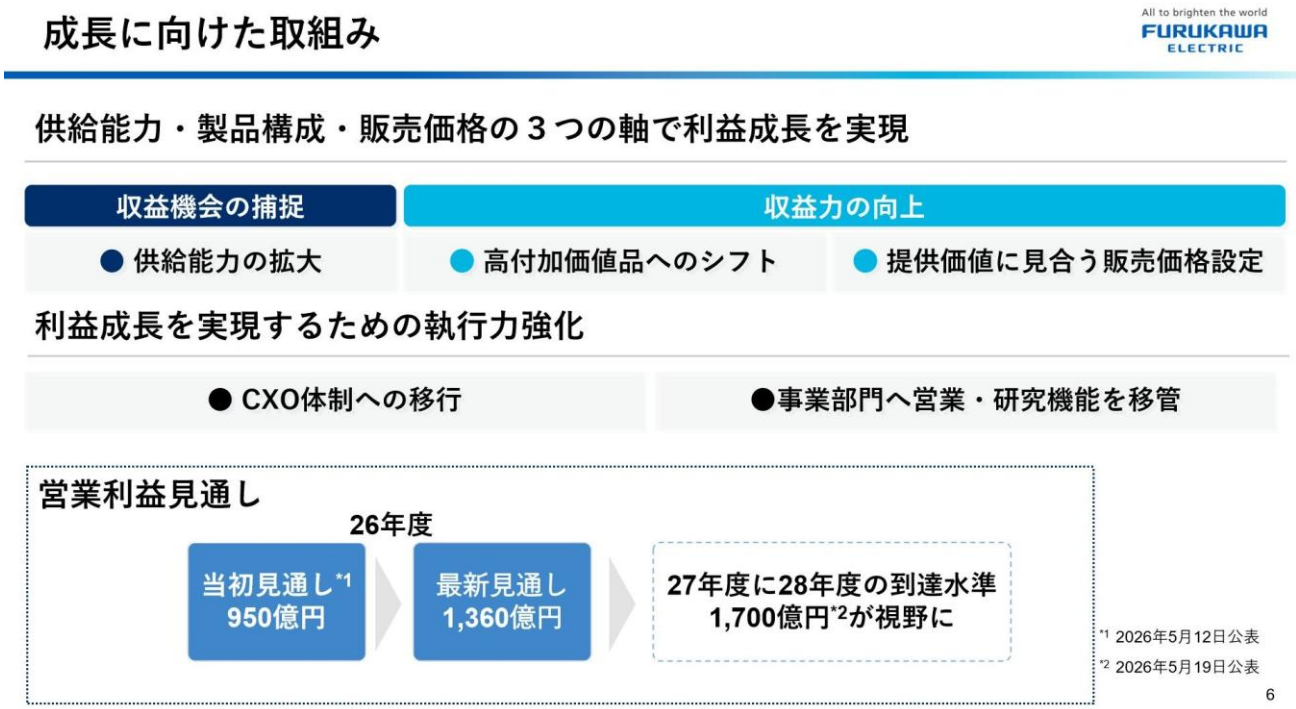
供給能力拡大を進める主な製品群		26年度に追加投資を決定	稼働時期（予定）	供給能力増加（26年度期初比、フル稼働時）
光ソリューション	ローラブルリボンケーブル	○	28年度下期より順次稼働	2倍
	海底用ファイバ	○	29年度までに順次稼働	4倍
	MTフェルール	○（TMTフェルール）	28年度より順次稼働	2倍
情報コンポーネント	HVLP4銅箔	○	29年度末までに順次稼働	2倍*
	水冷モジュール	ー	26年度上期に量産開始	
	DFBレーザチップ	ー	28年度下期にフル稼働	5倍

*26年度末比

5

まずは成長に向けた取組みでございます。5 ページ目をご覧ください。足元の状況は旺盛なデータセンタ関連需要に対応するために、お客様のご要望などを踏まえて製品供給能力の拡大を着実に進めております。

現在までに公表いたしました案件をまとめたのがこの表です。光ソリューション領域、情報コンポーネント領域において、主にここに示す製品群に対して、供給能力拡大に向け、増産投資を進めております。ローラブルリボンケーブル、海底用ファイバ、MT フェルール、HVLP4 銅箔につきましては、当初の増産投資に加えて、追加の投資も行う計画となっております。



6 ページ目をご覧ください。事業の成長は、製品供給能力の拡大に加え、製品構成の変更、すなわち高付加価値品へのシフト推進と、販売価格の最適化の三つの軸で進めています。また、成長を実現するための業務執行力強化に向けて CXO 体制への移行、事業部門への営業や研究開発機能の移管を進めてまいりました。

今年度の連結営業利益見通しは、当初 950 億円を見込んでおりましたが、ここまでの進捗状況などを勘案して 1,360 億円に上方修正しました。この状況で進められれば、当初は 2028 年度に到達すると見込んでいた連結営業利益 1,700 億円に、1 年前倒しで到達できる可能性が見えてきています。

データセンタ市場については様々なことが言われていますが、当社としては、本年 5 月に公表したビジョン 2030 実現に向けた経営方針でお示しした見立ては変えておりません。引き続き成長市場の需要を捕捉し、適切な規模の投資を行って成長につなげてまいります。

それでは続いて青島から、上期実績と今年度の通期予想のポイントについてご説明いたします。

26年度上半期実績のポイント

All to brighten the world FURUKAWA ELECTRIC

■ データセンタ関連製品の売上増加等により前年比で増収増益
■ 上半期実績として2001年度以降過去最高値（売上高および各段階利益）

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
7,377億円	**576億円**	**649億円**	**588億円**
前年実績　6,107億円 前年比　＋1,270億円 増減率　＋21%	前年実績　191億円 前年比　＋385億円 増減率　＋201%	前年実績　203億円 前年比　＋447億円 増減率　＋220%	前年実績　129億円 前年比　＋459億円 増減率　＋357%

	FY25 H1	FY26 H1	前年比
銅建値平均（円/kg）	1,461	2,278	＋817
為替平均（円/米ドル）	146	160	＋14

8

青島：それでは私より、26 年度上半期決算および 26 年度通期予想についてご説明いたします。

8 ページをご覧ください。26 年度上半期決算のポイントです。売上高は 7,377 億円、前年同期比 21%増。営業利益は 576 億円、前年同期比 201%増となりました。また、経常利益は 649 億円、親会社株主に帰属する当期純利益は 588 億円となり、売上高および各段階利益とも上半期として 2001 年度以降で過去最高値となりました。特にデータセンタ関連製品の需要拡大を着実に取り込めたことが増収増益要因となります。なお、銅建値と為替はいずれも前年同期に対して上昇しました。

26年度上半期実績-要約P/L

All to brighten the world
FURUKAWA ELECTRIC

（単位：億円）

	FY25 H1	FY26 H1	前年比	主な増減内訳（前年比）		FY26 H1 前回予想	前回予想比
	a	b	b-a			c	b-c
売上高	6,107	**7,377**	+1,270	10ページ参照	・データセンタ関連製品等の売上増	7,200	+177
営業利益	191	**576**	+385	11ページ参照		495	+81
（率）	3.1%	7.8%	+4.7			6.9%	+0.9
受取/支払利息	▲ 39	**▲ 48**	▲ 9			–	–
持分法投資損益	51	**139**	+89		・持分法適用関連会社が好調	–	–
為替損益	▲ 20	**▲ 33**	▲ 13			–	–
経常利益	203	**649**	+447			605	+44
（率）	3.3%	8.8%	+5.5			8.4%	+0.4
特別損益	4	**192**	+189		・政策保有株式の売却益	–	–
法人税等	▲ 62	**▲ 234**	▲ 172			–	–
非支配株主に帰属する当期純利益	▲ 15	**▲ 20**	▲ 4			–	–
親会社株主に帰属する当期純利益	129	**588**	+459			580	+8
（率）	2.1%	8.0%	+5.9			8.1%	▲ 0.1
銅建値 平均（円/kg）	1,461	**2,278**	+817			2,225	+53
為替 平均（円/米ドル）	146	**160**	+14			160	▲ 0

＊2026/9/24公表

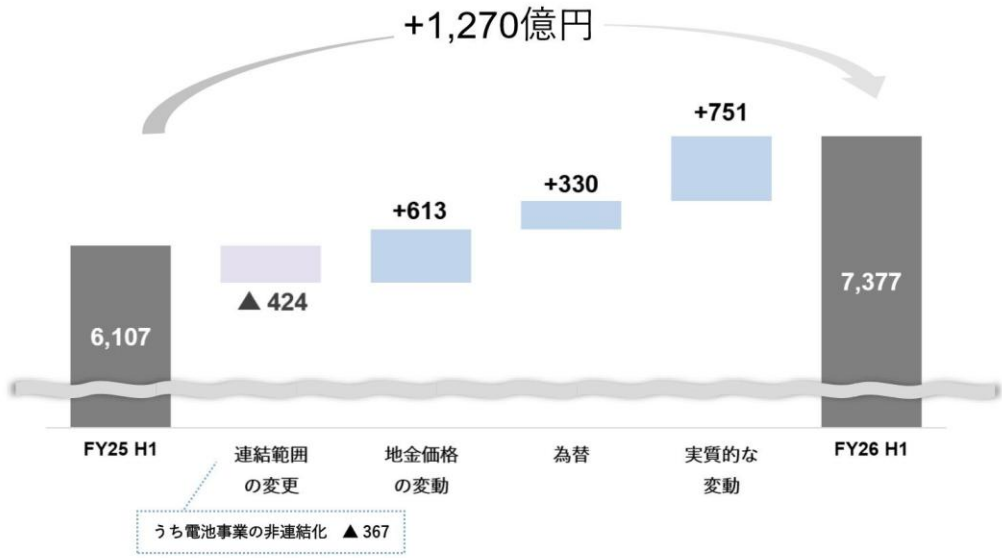
9

9 ページをご覧ください。売上高と営業利益については、次ページ以降の増減要因で説明しますが、その他の項目について補足します。営業外損益では、持分法適用関連会社の好調もあり、経常利益は 649 億円。特別損益では政策保有株式の売却益などが寄与し、親会社株主に帰属する当期純利益は 588 億円となりました。

26年度上半期実績-売上高の増減要因

All to brighten the world
FURUKAWA ELECTRIC

（単位：億円）



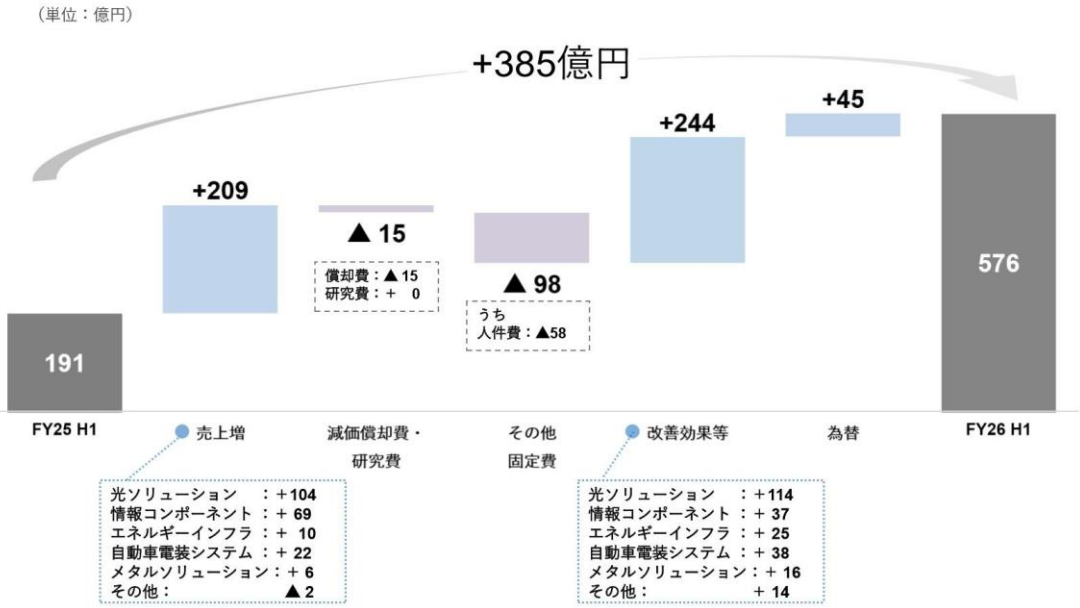
10

10 ページは売上高増減要因です。売上高は前年同期比 1,270 億円増加です。連結範囲の変更は、電池事業の非連結化もあり 424 億円の減少。地金価格の変動は、銅価高騰により 613 億円増加。為替影響は円安により 330 億円増加。実質的な変動は 751 億円の増加となります。

実質的な変動の内訳は、光ソリューションで約 300 億円増加、情報コンポーネントで約 140 億円増加、エネルギーインフラで約 40 億円増加、自動車電装システムで約 90 億円増加、メタルソリューションで約 180 億円増加となりました。

26年度上半期実績-営業利益の増減要因

All to brighten the world
FURUKAWA ELECTRIC



11

11 ページは営業利益の増減要因です。売上増の効果によりプラス 209 億円。主に光ソリューションで 104 億円、情報コンポーネントで 69 億円の増益効果があり、データセンタ関連需要の拡大が利益成長につながっています。加えて、価格改定や製品ミックスの改善など、収益性改善の取組みも利益を押し上げています。一方で、人件費や償却費の増加といったコストアップもありますが、これを吸収して全体でプラス 385 億円の増益となりました。

26年度予想の見直しについて

All to brighten the world
FURUKAWA ELECTRIC

■ 上半期実績および事業環境を踏まえ予想を見直し
■ 26年度の年間配当予想を据え置き、１株当たりの中間配当金を11円とする

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
1兆5,700億円	**1,360億円**	**1,550億円**	**1,180億円**
前回予想　1兆5,300億円	前回予想　1,230億円	前回予想　1,430億円	前回予想　1,050億円
前回予想比　＋400億円	前回予想比　＋130億円	前回予想比　＋120億円	前回予想比　＋130億円
増減率　＋3%	増減率　＋11%	増減率　＋8%	増減率　＋12%

	FY26 前回予想*	FY26 H1	FY26 H2前提	FY26 予想
銅建値平均（円/kg）	2,227	2,278	2,390	2,334
為替平均（円/米ドル）	160	160	160	160

* 2026/8/6公表

12

12 ページは 26 年度通期予想です。上期実績および事業環境を踏まえ、売上高および各段階損益の通期予想を上方修正します。26 年度の年間配当予想は 5 月公表時の 1 株当たり 22 円を据え置き、中間配当金は 11 円で実施します。なお、銅建値の前提を見直しています。

26年度予想-要約P/L

All to brighten the world FURUKAWA ELECTRIC

（単位：億円）

	FY25			FY26前回予想*			FY26予想			前年比			前回予想比		
	H1	H2		H1	H2		H1実績	H2		H1	H2		H1	H2	
		a			b			c			c-a			c-b	
売上高	6,107	6,969	13,076	7,200	8,100	15,300	7,377	8,323	**15,700**	+1,270	+1,354	+2,624	+177	+223	+400
営業利益	191	447	639	495	735	1,230	576	784	**1,360**	+385	+337	+721	+81	+49	+130
（率）	3.1%	6.4%	4.9%	6.9%	9.1%	8.0%	7.8%	9.4%	8.7%	+4.7	+3.0	+3.8	+0.9	+0.3	+0.6
受取/支払利息	▲ 39	▲ 41	▲ 80	–	–	–	▲ 48	–	–	▲ 9	–	–	–	–	–
持分法投資損益	51	115	165	–	–	–	139	–	–	+89	–	–	–	–	–
為替損益	▲ 20	21	2	–	–	–	▲ 33	–	–	▲ 13	–	–	–	–	–
経常利益	203	556	759	605	825	1,430	649	901	**1,550**	+447	+345	+791	+44	+76	+120
（率）	3.3%	8.0%	5.8%	8.4%	10.2%	9.3%	8.8%	10.8%	9.9%	+5.5	+2.8	+4.1	+0.4	+0.6	+0.5
特別損益	4	287	291	–	–	185	192	▲ 33	160	+189	▲ 320	▲ 131	–	–	▲ 25
法人税等	▲ 62	▲ 228	▲ 290	–	–	–	▲ 234	–	–	▲ 172	–	–	–	–	–
非支配株主に帰属する当期純利益	▲ 15	▲ 18	▲ 34	–	–	–	▲ 20	–	–	▲ 4	–	–	–	–	–
親会社株主に帰属する当期純利益	129	597	725	580	470	1,050	588	592	**1,180**	+459	▲ 4	+455	+8	+122	+130
（率）	2.1%	8.6%	5.5%	8.1%	5.8%	6.9%	8.0%	7.1%	7.5%	+5.9	▲ 1.4	+2.0	▲ 0.1	+1.3	+0.7
銅建値 平均（円/kg）	1,461	1,929	1,695	2,225	2,230	2,227	2,278	2,390	**2,334**	+817	+461	+639	+53	+160	+107
為替 平均（円/米ドル）	146	155	151	160	160	160	160	160	**160**	+14	+5	+9	▲0	–	▲0

* 2026/9/24公表

13

13 ページは、26 年度通期予想の要約 P/L です。売上高は前回予想比プラス 400 億円で、うち約 270 億円が銅価高騰の影響です。営業利益は前回予想比プラス 130 億円。次ページでセグメント別に説明します。経常利益は、営業利益の見直しに加え、持分法投資損益をプラス方向に、為替差損をマイナス方向に見直し、前回予想比プラス 120 億円とし、親会社株主に帰属する当期純利益はプラス 130 億円の上方修正としました。

26年度予想-セグメント別 営業利益

All to brighten the world
FURUKAWA ELECTRIC

■ データセンタ関連製品の需要は引き続き旺盛

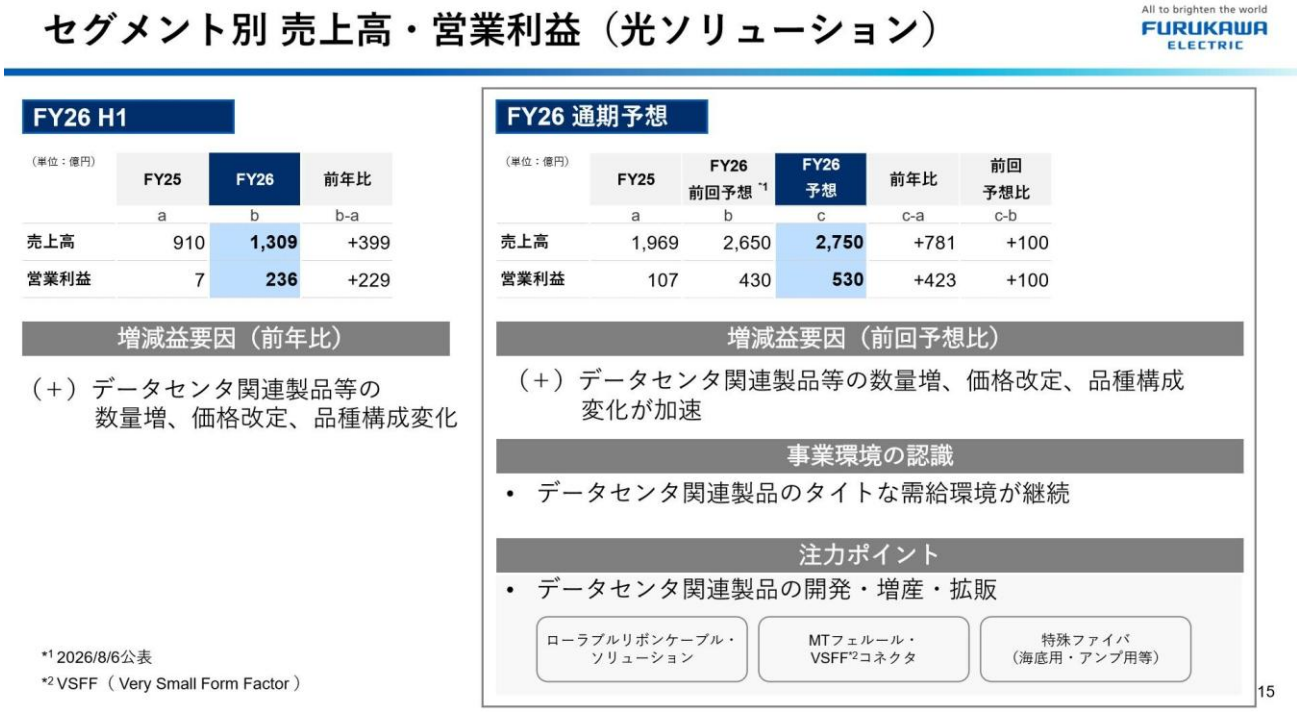
（単位：億円）

セグメント	FY25 H1	FY25 H2	FY25	FY26 前回予想*1 H1	FY26 前回予想*1 H2	FY26 前回予想*1	FY26 予想 H1実績	FY26 予想 H2	FY26 予想	前年比 H1	前年比 H2	前年比	前回予想比 H1	前回予想比 H2	前回予想比
		a			b			c			c-a			c- b		
光ソリューション	7	100	107	185	245	430	**236**	**294**	**530**	+229	+194	+423	+51	+49	+100
情報コンポーネント	63	97	159	155	355	510	**152**	**358**	**510**	+89	+262	+351	▲3	+3	-
エネルギーインフラ	28	72	100	40	30	70	**49**	**21**	**70**	+22	▲52	▲30	+9	▲9	-
自動車電装システム	103	160	264	125	105	230	**129**	**111**	**240**	+26	▲49	▲24	+4	+6	+10
メタルソリューション	16	18	34	15	25	40	**31**	**29**	**60**	+14	+12	+26	+16	+4	+20
連結合計（サービス・開発等*2 消去等を含む）	191	447	639	495	735	1,230	**576**	**784**	**1,360**	+385	+337	+721	+81	+49	+130

*1 2026/8/6公表
*2 電池事業のFY25実績値は、サービス・開発等に含む（FY25 Q3まで連結）

14

14 ページはセグメント別営業利益の 26 年度見通しについてです。前回予想比プラス 130 億円見直し、年間予想を 1,360 億円とします。データセンタ関連製品等の数量増、価格改定、品種構成変化が加速していることから光ソリューションはプラス 100 億円、自動車電装システムは上半期実績および足元の事業環境を反映しプラス 10 億円、メタルソリューションは高付加価値製品の売上増によりプラス 20 億円を上方修正します。



15 ページからはセグメント別の状況について説明します。まずは光ソリューションです。上半期の営業利益は 236 億円となり、前年同期から 229 億円改善しました。データセンタ関連製品について、数量増に加えて価格改定、高付加価値製品への品種構成変化が進んだことが寄与しています。通期予想はこちらのとおり上方修正します。

セグメント別 売上高・営業利益（情報コンポーネント）

All to brighten the world FURUKAWA ELECTRIC

FY26 H1

（単位：億円）

	FY25	FY26	前年比
	a	b	b-a
売上高	965	**1,189**	+224
営業利益	63	**152**	+89

増減益要因（前年比）

（＋）光半導体関連製品や銅箔等、
　　データセンタ関連製品の売上増
（＋）為替変動の影響

*1 2026/8/6公表

*2 DFBレーザチップ
（Distributed Feedback Laser：分布帰還形レーザ）
ラマン増幅用励起光源
SOA（Semiconductor Optical Amplifier：半導体光増幅器）

FY26 通期予想

（単位：億円）

	FY25	FY26 前回予想 *1	FY26 予想	前年比	前回予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	1,980	3,250	**3,150**	+1,170	▲ 100
営業利益	159	510	**510**	+351	-

予想における連結消去の見直し

事業環境の認識

- データセンタ関連製品のタイトな需給環境が継続

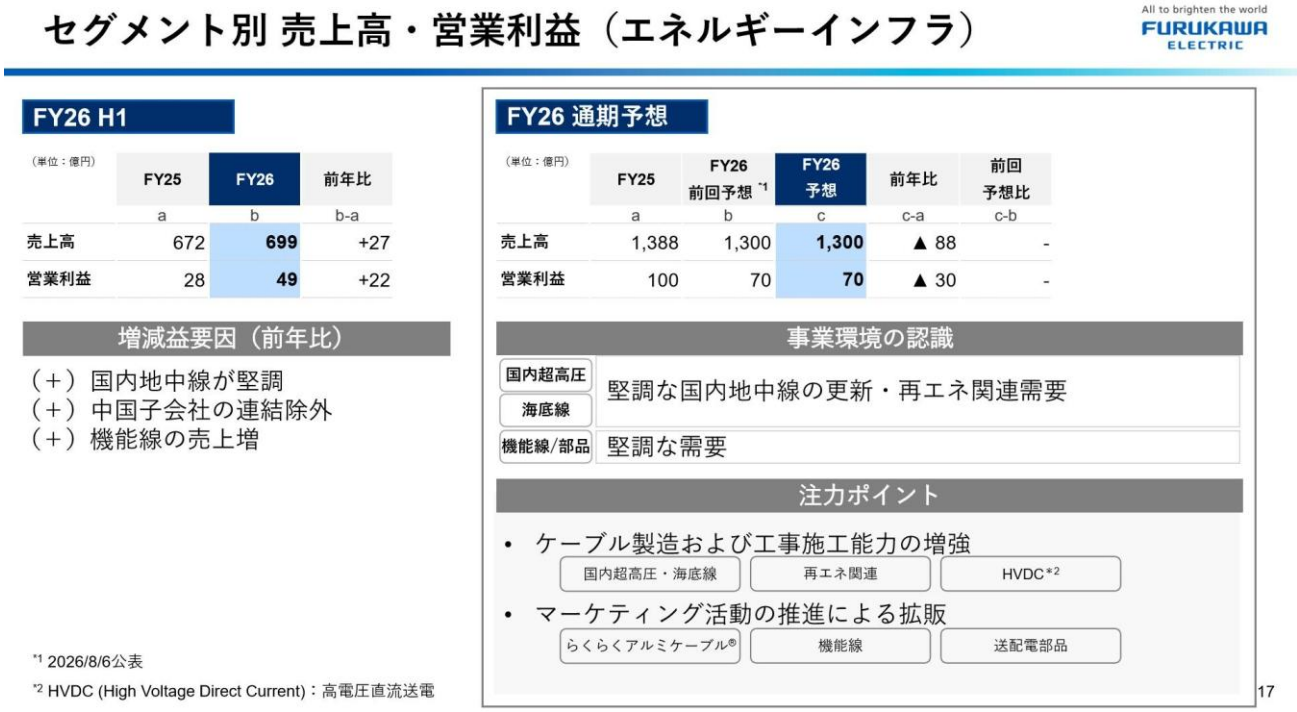
注力ポイント

- データセンタ関連製品市場向け高付加価値製品の増産・拡販
  - 水冷モジュールの増産（Q2量産開始済）
  - 銅箔の製品ミックス転換（高周波基板用銅箔）
  - 光半導体関連製品の増産

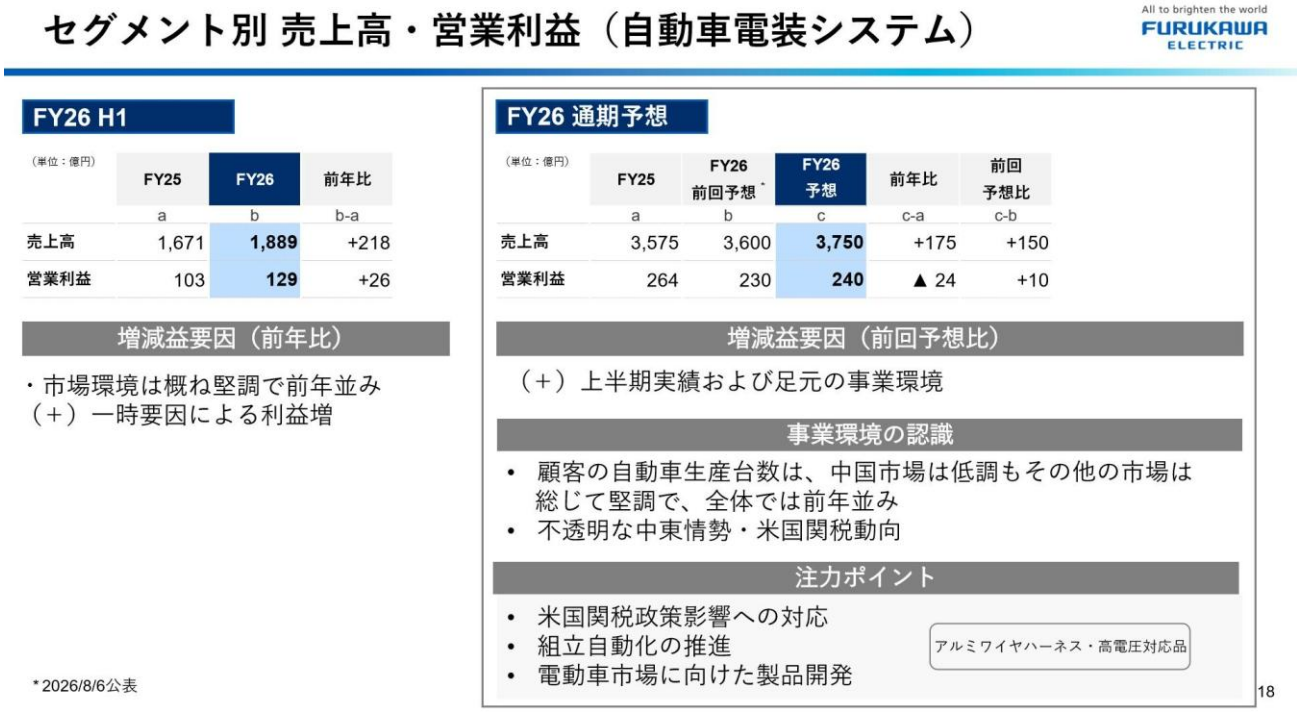
高機能放熱・冷却製品	高周波基板用銅箔	光半導体関連製品*2	HDD用薄型アルミブランク材	半導体製造用テープ	高機能フォーム製品

16

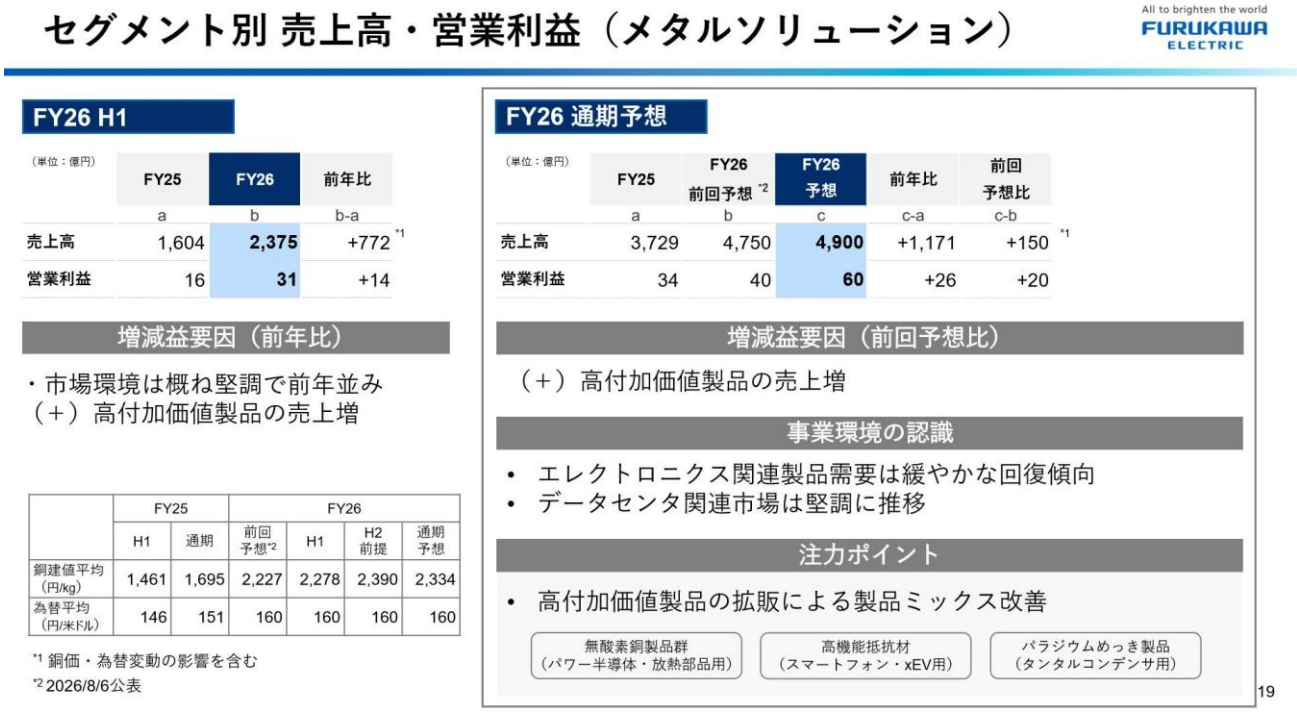
16 ページは情報コンポーネントです。上半期の営業利益は 152 億円となり、前年同期から 89 億円改善しました。光半導体関連製品や銅箔等のデータセンタ関連製品の売上増により、前年同期比増益となりました。通期予想は海外連結会社の決算期ずれによる連結消去を見直し、売上高は 100 億円減少します。



17 ページはエネルギーインフラです。上半期の営業利益は 49 億円となり、前年同期から 22 億円改善しました。国内地中線が堅調、中国子会社の連結除外によりプラス効果、機能線の売上が増加したことから、前年同期比で増益となりました。通期予想は見通しを据え置きします。



18 ページは自動車電装システムです。上半期の営業利益は 129 億円となり、前年同期から 26 億円改善しました。市場環境はおおむね堅調で前年並み、一時要因による収益改善もあり、前年同期比増益となりました。通期予想はこちらのとおり上方修正します。



19 ページはメタルソリューションです。上半期の営業利益は 31 億円となり、前年同期から 14 億円改善しました。市場環境はおおむね堅調で前年並みですが、高付加価値製品の売上増により収益が改善し、前年同期増益となりました。通期予想は足元の銅価高騰や高付加価値製品の売上増加を織り込み、こちらのとおり上方修正します。

26年度上半期実績-要約B/S･フリーキャッシュフロー

All to brighten the world FURUKAWA ELECTRIC

（単位：億円）

	FY25末 a	FY26 H1末 b	増減 b-a
流動資産	5,955	**6,653**	+698
現金及び預金	692	790	+98
受取手形、売掛金及び契約資産	2,665	2,937	+273
棚卸資産計	2,109	2,386	+277
固定資産	4,709	**4,804**	+95
有形固定資産	2,769	2,986	+217
無形固定資産	254	261	+7
投資その他の資産	1,685	1,557	▲ 128
資産合計	10,664	**11,458**	+794
流動負債	4,287	**4,703**	+416
固定負債	2,025	**2,020**	▲ 5
負債合計	6,311	**6,723**	+411
株主資本	3,562	4,003	+442
その他の包括利益累計額	609	546	▲ 63
非支配株主持分	182	186	+4
純資産合計	4,352	**4,735**	+383
負債・純資産合計	10,664	**11,458**	+794
自己資本比率	39.1%	39.7%	+0.6
NET有利子負債	2,475	2,541	+66
NET D/Eレシオ	0.59	0.56	▲ 0.03

（単位：億円）

	FY26 H1
フリーキャッシュフロー	**＋75**
営業CF	**＋287**
うち営業利益	＋576
うち減価償却費	＋217
うち運転資本増減	▲510
投資CF	**▲212**
うち固定資産取得	▲493
うち資産売却	＋305

FY26通期では、概ねゼロを見込む

政策保有株式の売却による収入等

20

20 ページは要約バランスシートとフリーキャッシュフローです。総資産は 1 兆 1,458 億円で、前年度末より 794 億円増加です。主に売上伸長に伴う運転資本の増加によるものです。各経営指標は全て想定内です。上半期のフリーキャッシュフローは 75 億円のプラスとなりました。営業キャッシュフローは 287 億円のプラス、投資キャッシュフローは 212 億円のマイナスで、成長領域への投資によりキャッシュアウトは増加していますが、政策保有株式の売却等でカバーしています。

今期のフリーキャッシュフロー見通しです。5 月に公表したキャッシュアロケーションでは、今期のフリーキャッシュフローが厳しいと説明しましたが、下期も収益改善が進むことにより、営業キャッシュフローが創出され、通期見通しはおおむねゼロと見ています。

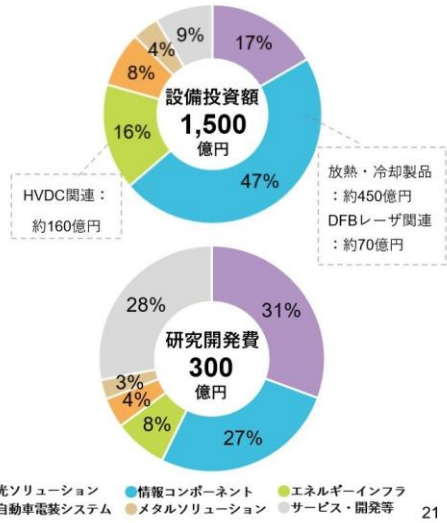
設備投資額・減価償却費・研究開発費

All to brighten the world FURUKAWA ELECTRIC

■ 通期予想は据え置き

2026/5/12公表

（単位：億円）	FY25 H1	FY26 H1	前年比	FY25	FY26 予想	前年比
	a	b	b-a	c	d	d-c
設備投資額	233	446	+213	567	1,500	+933
減価償却費	210	217	+7	432	460	+28
研究開発費	151	138	▲13	284	300	+16



21

21 ページは設備投資額・減価償却費・研究開発費です。データセンタ関連製品の需要増に伴い、増産投資を実施していることから、前年比で増加しています。設備投資額、減価償却費、研究開発費の見通しは、前回予想から変更はございません。

説明は以上となります。